

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2003-511776 (P2003-511776A)
 【公表日】平成 15 年 3 月 25 日 (2003.3.25)
 【出願番号】特願 2001-530200 (P2001-530200)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 17/17 (2006.01)
H 0 3 H 17/00 (2006.01)
H 0 3 H 17/02 (2006.01)
H 0 4 N 7/26 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 17/17
 H 0 3 H 17/00 6 0 1 P
 H 0 3 H 17/00 6 2 1 F
 H 0 3 H 17/02 6 4 1 N
 H 0 4 N 7/13 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 6 月 21 日 (2005.6.21)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 所定の標本化周期及び量子化ビット長を有するデジタル信号を処理する方法であって、

同一の量子化レベルが複数個連続する信号区間を、逐次検出するステップと、

互いに隣接する 2 つの該同一レベル連続区間の不連続部分を含む所定の信号区間を補間対象区間として決定するステップと、

該補間対象区間内の前後にわたる区間の信号の周期性の度合いを検出するステップと、

該検出された周期性の度合いに基づいて、所定の単調に変化する関数曲線の変化特性を適応的に変化させながら、該関数曲線に従って該補間対象区間内の信号レベルを補間処理するステップとを含む方法。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の方法において、

該信号の周期性の度合いが大きいときに、該関数曲線が緩やかに変化し、又その度合いが小さいときに急峻に変化するように該関数曲線の特性を変化させるものである方法。

【請求項 3】 請求項 1 に記載の方法において、

該補間処理するステップが、該信号の周期性の度合いを周波数分析を用いて検出するステップを含む方法。

【請求項 4】 請求項 1 に記載の方法において、

該補間処理するステップが、該信号の周期性の度合いを自己相関関数分析を用いて検出するステップを含む方法。

【請求項 5】 請求項 3 に記載の方法において、

該同一レベルが複数個連続する区間の各々を補間対象区間とし、および該周波数分析が、該補間対象区間の時間長を T として周波数 $f = 1 / 2 T$ における周波数成分のレベルを測定することからなる方法。

【請求項 6】 所定の標本化周期および量子化ビット長を有するデジタル信号を処

理する装置であって、

同一の量子化レベルが複数個連続する信号区間を逐次検出する手段と、

互いに隣接する該同一レベル連続区間の不連続部分を含む所定の信号区間を補間対象区間として決定する手段と、

該補間対象区間の前後にわたる区間の信号の周期性の度合いを検出する手段と、

該検出された信号の周期性の度合いに基づいて、所定の単調に変化する関数曲線の変化特性を適応的に変化させながら、該関数曲線に従って該補間対象区間内の信号レベルを補間処理する手段を含む装置。

【請求項 7】 請求項 6 に記載の装置において、

該補間手段が、該信号の周期性の度合いが大きいときに該関数曲線が緩やかに変化し、又その度合いが小さいときに急峻に変化するように該関数曲線の特性を変化させるものである装置。

【請求項 8】 請求項 6 に記載の装置において、

該補間処理する手段が、該信号の周期性の度合いを周波数分析を用いて検出するよう動作する装置。

【請求項 9】 請求項 6 に記載の装置において、

該補間処理する手段が、該信号の周期性の度合いを自己相関関数分析を用いて検出するよう動作する装置。

【請求項 10】 請求項 8 に記載の装置において、

該同一のレベルが連続する信号区間の各々を補間対象区間とし、及び該周波数分析が、該補間対象区間の時間長を T として周波数 $f = 1 / 2 T$ における周波数成分のレベルを測定することからなる装置。